

NPO 高齢社会をよくなる 女性の会 会報

No. **306**

2025年9月発行

NPO法人高齢社会をよくなる女性の会
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-9-1
第31宮庭マンション802号室
TEL. 03-3356-3564
FAX. 03-3355-6427
郵便振替 00100-0-79477



新理事長・副理事長と会場との意見交換

第21回NPO法人高齢社会をよくなる女性の会 定例総会報告	 1
第1号議案～第4号議案	... 3～9
全国大会予告、意見交換ほか	 10
記念講演「人生100年時代を生き切る人生設計」	
本間 郁子	 12
お悔み	 15
本の紹介・トピックス・事務局だより	 16

2025年度

第21回NPO法人高齢社会をよくなる女性の会 定例総会報告

2025年6月14日（土） 於：日比谷図書文化館コンベンションホール

◎第21回定例総会は、個人会員485人、グループ会員32のうち、個人会員55人出席、委任状提出209人、グループ会員4グループ出席、委任状提出17グループで、定款27条の正会員総数の2分の1以上の出席要件を満たしており、この総会は成立した。



総合司会 稲葉理事



木村理事長

1. 総合進行 稲葉敬子（本会理事）

2. 理事長あいさつ 木村民子理事長

昨年の総会で樋口恵子理事長と沖藤・袖井両副理事長が退任され、新体制での初の総会である。今年は戦後80年、女性の参政権獲得80年にあたるほか、介護保険25周年など節目の年である。本会が1983年の設立以来、40年以上継続してきたことは、皆さまと一緒に頑張ってくださった賜物である。「平和なくして平等なく、平等なくし

て平和なし」とおっしゃった市川房枝さんをはじめとする先達のメッセージを今後も引き継いでいきたいと考えている。

高齢化が進んだ現在、一人暮らしの高齢者の増加が最大の問題となっている。介護保険については、上野千鶴子さんが代表をつとめるウイメンズ・アクション・ネットワーク（WAN）とともに本会は、「ケア社会をつくる会」を作って、運動を続けてきたおかげで、メディアの扱いも増えてい

る。中でも切実な介護人材不足や住宅問題もあり、今年度も皆さまの声を取り入れて、活動していきたいのでご協力をお願いしたい。

3. 議長等選出

議長：渡辺敏恵副理事長、議事録署名人：伊藤恭子理事・晝間洋子理事、書記：熊崎清子理事・林千根理事



議長 渡辺副理事長

4. 議事審議

第1号議案 2024年度事業報告承認の件

石田路子副理事長が事業報告を説明した。
(第1号議案参照)

第2号議案 2024年度事業収支決算報告承認の件並びに監査報告

佐藤千里事務局長が決算状況を説明した。長く赤字が続いていたが、思わぬご寄付のおかげで借り入れをせずに執行できたと報告があった。(第2号議案参照)

続いて、松田敏子監事より監査の結果、事務局が正確かつ適正に会計事務を遂行していることが報告され、会員は減りつつあるがそれを悲観することなく、現状にあったやり方で、今後も意欲ある新体制とともに魅力ある会にしていくことに監事として協力していきたいと発言があった。鬼塚信



石田副理事長



佐藤事務局長



松田監事



鬼塚監事

子監事からは旧会資産をNPO法人の資金として正規に預け替えていく必要があるのではないかと発言があった。

第1号議案及び第2号議案については一括採択され、会場からの質問・異議はなく、満場一致で承認された。

第3号議案 2025年度事業計画案審議の件

木村理事長より、10月開催予定の全国大会in熱海のほか新年度の事業計画案の説明がなされた。(第3号議案参照)

第4号議案 2025年度収支予算案審議の件並びに旧高齢社会をよくする女性の会資産報告

続いて佐藤事務局長より、財政的に厳しい状況にあるため、会報の発行回数を減らすことを含めた事業計画と予算を準備したとの説明があった。併せて、旧高齢社会をよくする女性の会の資産報告を行った。

会場から、新年度の調査についてもう少し説明してほしいとの質問があり、石田副理事長から、昨年の介護保険サービス利用者実態調査の自由記述にあった内容を整理して質問項目をたて、より詳しい情報を聞き取る調査にしたい旨の補足説明があった。

第3号議案及び第4号議案については、一括採択され、満場一致で承認された。

以上で総会の審議は終了し、議長は解任された。

第1号議案

2024(令和6)年度 事業報告

●例会・総会・全国大会

4/18(木) 4月例会(ハイブリッド開催)

第2回樋口恵子賞受賞者に聞く勉強会
〈パート1〉

「人生100年時代を楽しむための準備：とても大事な排泄の話」

受賞発表者：小島みさお(NPO法人日本
コンチネンス協会前副会長/コンチネン
スアドバイザー)

司会：柳原智子(本会理事)

参加者：会場35人 オンライン20人

於：日比谷図書文化館スタジオプラス

6/8(土) 第20回特別総会

総会・議案審議：役員改選・定款の改正

特別講演：「私たちはどう生きるか～備えるもの 備えること～」

講師：常光利恵(本会理事・石川県21ネット
ワーク代表)

新旧役員トーク&トーク(新旧理事長・副
理事長)

司会：稲葉敬子(本会理事)

参加者：個人81人、委任状297人、団体：
7グループ、委任状24グループ

於：東京ウィメンズプラザ・ホール

9/25(水) 9月例会(ハイブリッド開催)

「あなたのヘルスケアが日本の未来を救う
～今こそ健康づくりの意識改革を～」

講師：宮崎千恵((一社)医療政策を提言
する女性医師の会代表)

司会：宮崎冴子(本会理事)

参加者：会場25人 オンライン10人

於：東京ウィメンズプラザ第一会議室

10/26(土)～27(日) 第43回高齢社会

をよくなる女性の会全国大会inとよた

「おいでん とよたへ！本音で語るまい！
わたしたちの～暮らし・人生～そして未来」

基調講演：「おひとりさまの老後が危ない」

講師：上野千鶴子(社会学者・東京大学名
誉教授・認定NPO法人ウィメンズアク
ションネットワーク理事長)

シンポジウム「どうなる“介護保険”―老
いても安心のはずが不安の種に？」

コーディネーター：石田路子(本会副理事
長・名古屋学芸大学客員教授・名誉教授)

シンポジスト：大竹雄二(厚生労働省老健
局介護保険計画課長)、近藤敬太(豊田
地域医療センター在宅医療支援センター
長)、三井克哉(旭会特別養護老人ホーム
くらがいけ施設長)、杉山尚子(日本
介護サービス株式会社主任介護支援専門
員)、袖井孝子(本会理事)

第1分科会「人生100年時代 本物の幸齢
者になりませんか？」

コーディネーター：渡辺敏恵(本会副理事長・
自分らしい「生き」「死に」を考える会代表)

パネリスト：斉藤知江子(こころのひと休
み保健室代表)、池田千恵(司法書士
岡崎家族信託・相続手続き事務所所長)

実演：熊沢里美(やはぎ会 岡崎ごまんぞ
く体操サポーター)

第2分科会「“高齢者の未来について” 若
い世代とディスカッション」

コーディネーター：西尾香小里(NPO法
人ブルーバード代表理事)

参加校：愛知工業大学、中京大学、日本赤
十字豊田看護大学 各大学生

第3分科会「女性も働きやすい社会へ～
GGI世界118位の現状をふまえて～」

コーディネーター：木村民子(本会理事長)

パネリスト：林葉子(名古屋大学ジェンダー
ダイバーシティセンター教授)、築瀬友希
(トヨタテクニカルディベロップメント株式
会社コーポレート管理部人事室DEI推進グ
ループ長)、白井えり子(日進市議会議員)

第4分科会「“くるまのまち豊田”で高齢
ドライバー問題を考える」

コーディネーター：吉野まり子(名古屋学
芸大学客員教授)

パネリスト：菊池雄（豊田市地域振興部市民安全室交通安全防犯課長）、堀江信彦（一般財団法人トヨタ・モビリティ基金プログラム企画グループプログラム・ゼネラル・マネージャー）、鈴木直子（やはぎ会）

第5分科会「みんなの居場所がある地域 誰もが参加できる方法」

コーディネーター：石田路子

パネリスト：小池俊之（豊田市福祉部介護保険課担当長）、尾原洋子（豊田市ファミリー・サービス・クラブ会長）、稗田猛（豊南おたすけボランティアサブリーダー）、板倉小夜子（しきしまの家運営協議会副代表）

参加者：延べ623人

12/14（土）歳末東京名物 女たちの討ち入りシンポ「介護保険制度 いま利用者が置き去りにされている！？」

全体進行：稲葉敬子（本会理事）

第1部「介護保険サービス利用者実態調査」

報告：石田路子

第2部「利用者大いに語る」

司会：渡辺敏恵

体験報告：佐藤千里（本会理事）、植本眞砂子（本会理事）、袖井孝子

まとめ：石田路子

「要望書」（案）読み上げ：渡辺敏恵

「要望書」（案）採択：木村民子

第3回「樋口恵子賞」発表・表彰式

実行委員長：袖井孝子

司会：角田とよ子

審査講評：浅倉むつ子・渥美雅子

受賞者：安田兼子（青空サロン代表／島根）、

山崎 翠（特定非営利活動法人 ちいきのなかま代表／長崎）、駒尺恵子（那須まちづくり株式会社代表／栃木）、大内琉加（千葉商科大学人間社会学部 学生団体「よろず隊」代表／千葉）

参加者：会場90人

於：東京ウィメンズプラザホール

2/6（木）2月新春例会（ハイブリッド開催）

第2回樋口恵子賞受賞者に聞く勉強会（パート2）

「地域をつなぎ 人と結び合うー砧むらおばちゃん会議の事例からー」

受賞発表者：大海篤子（砧むらおばちゃん会議代表）

司会：木村民子

参加者：会場30人 オンライン20人

於：日比谷図書文化館セミナールームA

要望書 介護保険改定に関する要望書を福岡 資麿厚生労働大臣へ提出（2025.2.19）

調査研究事業 「介護保険サービス利用者実態調査」

調査期間：2024年6月25日～7月31日、回収調査票数：770

国内交流事業 高連協：「日本老年医学会学術会議」（6/13～15、於ウイング愛知）への動員 3名参加

「25周年記念イベント」（2/18 於芝増上寺慈雲閣）団体討論会、運営協力

ケア社会をつくる会：「こんなはずじゃなかった介護保険8時間ぶっ通しシンポ」（9/16）

衆院選に向け、各党に介護保険改正に関する公開質問状を送り、回答をもとに緊急記者会見（10/18）

クオータ制を推進する会（Qの会）：運営に協力、院内集会、オンライン勉強会に参加、ほか

樋口恵子賞 樋口恵子賞実行委員会の活動（第3回樋口恵子賞の募集・選考・表彰等）に協力 ※ただしこの活動に関する資金はすべて樋口恵子個人の拠出である。

〈会報発行〉 年間6回発行 6月、8月、10月、12月、1月、3月

〈理事・監事会〉 特別理事会 5/11（土）ハイブリッド開催

於：主婦会館プラザエフ8階パンジー

〈運営委員会〉 4/22（以降ズーム併催）、5/29、6/26、7/24、9/18、10/9、10/23、11/18、1/8、2/17、3/24

〈会員数〉 個人525人 グループ会員36 賛助会員4人（2025.3.31現在）

第2号議案

2024（令和6）年度 事業収支決算書

自 2024年4月1日 至 2025年3月31日

（単位：円）

科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
経常収入の部			個人会員525人、グループ37、賛助会員3
1. 会費（含入会金）	3,600,000	3,677,000	入会金171,000、会費3,506,000
2. 印刷物売上	150,000	98,770	売上分203,930、仕入分105,160
3. 雑収入	194,741	4,397,576	寄付・カンパ・大会協賛金、利息他
4. 借入金	4,500,000		
5. 前年度繰入金	- 1,244,741	- 1,244,741	
収 入 合 計	7,200,000	6,928,605	

科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
経常支出の部			
1. 事業費	1,865,000	1,611,896	
啓発事業費	1,500,000	1,208,249	全国大会、討ち入り、例会他
調査研究事業費	300,000	353,055	集計分析費、報告書作成費
相談事業費	5,000		
国内交流事業費	50,000	50,592	高連協・ASCON年会費他
国際交流事業費	10,000		
2. 管理費	5,260,000	4,901,047	
給料手当	1,600,000	1,473,910	事務局給料1,388,710、雑給85,200
福利厚生費	20,000		
会場・会議費	200,000	279,782	総会、理事会他
旅費交通費	450,000	334,840	事務局員交通費他
通信運搬費	700,000	674,887	会報送料、電話・切手代他
水道光熱費	110,000	107,196	
消耗品費	300,000	298,683	コピー機・電話器リース料
印刷製本費	1,400,000	1,217,698	会報印刷代、封筒印刷・資料コピー代他
事務費	230,000	276,069	税理士・行政書士顧問料、用紙・事務用品
管理費	220,000	218,400	事務局マンション管理費
雑 費	30,000	19,582	印紙代、振込手数料、茶葉代他
予備費	75,000		
当期支出合計		6,512,943	
次年度繰越金		415,662	
支 出 合 計	7,200,000	6,928,605	

次年度繰越金の計算

前年度繰越金		△ 1,244,741円
当期収入実績額	8,173,346円	
当期支出実績額	6,512,943円	差引 1,660,403円
次年度繰越金		415,662円

貸借対照表

2025（令和7）年3月31日現在
（単位：円）

借方（資産）		貸方（負債・基金）	
科 目	金 額	科 目	金 額
1. 現金	45,731	1. 次年度繰越金	415,662
2. 預貯金	2,205,547	2. 前受会費	102,000
3. 前払金	0	3. 預り金	4,276
4. 什器備品	400,000	4. 長期借入金	0
5. 電話加入権	70,000	5. 部門間勘定	2,199,340
合 計	2,721,278	合 計	2,721,278

以上の監査をなし、その正確かつ適正であることを承認します。

2025年5月2日

監事 松田敏子  印監事 鬼塚信子  印

旧高齢社会をよくなる女性の会資産報告

前年度期末残高	修繕積立金	4,150,753
〃	繰越金	5,403,784
当期損益	預金利息等	1,375
	本会会計繰入金	△200,000
	部門移動	6
当期末残高	計	9,355,918

貸借対照表

2025（令和7）年3月31日現在
（単位：円）

借方（資産）		貸方（負債・基金）	
科 目	金 額	科 目	金 額
1. 預貯金	7,165,918	1. 修繕積立金	4,150,753
2. 定額貯蓄	2,190,000	2. 次年度繰越金	5,205,165
合 計	9,355,918	合 計	9,355,918

第3号議案

2025(令和7)年度
事業計画(案)

昨年の総会での役員交代から新体制となり、前例に倣って手探りで運営してまいりましたが、新しい眼で事業を点検すると、いくつか課題が見えてきました。今年度は、高齢化による会員減の対策として若い人たちの入会を促すため、HPのリニューアルに取り組みます。例会では世代間格差の解消を図るため、意見交換の場を設ける予定です。さらに地方にお住まいの会員のために、会議や例会ではオンラインと対面のハイブリッド開催を進めて行きます。2025年度の全国大会in熱海(熱海大会)は従来の実行委員会方式ではなく、新しい形にチャレンジしつつ実施いたします。

異常気象、全国各地での自然災害、凶悪犯罪など高齢者を取り巻く環境はますます厳しくなっていますが、会員の皆様とのつながりを大事にし、前を向いていきたいと思ひます。

理事長 木村民子

●啓発事業・シンポジウム

◎高齢社会をよくする女性の会第44回全国大会in熱海

2025 未来に向けて

湯っくりとことん 話そじゃないか

〈日時〉2025年10月27・28日(月・火)

〈会場〉熱海市指定文化財 起雲閣 &
KKRホテル熱海(交流会)

〈大会スケジュール〉

1日目 10月27日(月)

会場:熱海市指定文化財 起雲閣

13:00~13:30 オープニング

13:30~14:45 基調講演1「男女共同
参画・老若男女の生き抜く力」

講師:名取はにわ氏(日本社会事業大
学理事長)

15:00~16:30 基調講演2「昭和歌謡
に見る女のあしあと」

講師:林家たけ平氏(落語家・熱海市
市民大学講師)

— 移動 —

18:30~20:30 交流会

会場:KKRホテル熱海

2日目 10月28日(火)

会場:熱海市指定文化財 起雲閣

9:30~ 受付開始

10:00~12:00 シンポジウム「医療と
介護の連携で安心の在宅ケアを—幸せ
な超長寿社会へ」(仮)

総司会:渡辺敏恵(本会副理事長)

コーディネーター:石田路子(本会副
理事長)

パネリスト:厚労省介護担当官・地元
医療従事者・地元介護従事者・熱海
市長寿介護課など交渉中

12:15~12:30 閉会セレモニー

◎東京歳末名物「女たちの討ち入りシンポ」
テーマ未定

〈日時〉12月13日(土)

〈会場〉東京ウィメンズプラザ・ホール(渋
谷区神宮前)

●総会・月例会など

4月23日(水) 4月例会「女性参政権80年
市川房枝の活動とそこから続く長い列」

講師:野村浩子氏

解説:木村民子理事長

於:東京ウィメンズプラザ視聴覚室

5月10日(土) 理事・監事会

於:プラザエフ主婦会館(四谷)

6月14日(土) 第21回定期総会

於：日比谷図書文化館コンベンションホール
・記念講演：本間郁子氏(公益財団法人U
ビジョン研究所理事長)

8月22日(金) ・例会「第3回樋口恵子賞
受賞者の話を聞くシリーズ
千葉商科大学「よろず隊」の活動報告、大
学生と参加者(高齢者等)との意見交換」

10月27日(月)～28日(火) 第44回全国
大会in熱海

12月13日(土) 東京歳末名物『女たちの
打ち入りシンポ』終了後、第4回「樋口恵
子賞」発表・表彰式

2月～3月 ・例会「『介護保険サービス利
用者実態調査—個別研究』実施報告会」(仮
題)

●国内交流事業

国内団体との交流・ネットワーク活動(高
連協、クオータ制を推進する会、ケア社会
をつくる会、ASCON、WAN、グロー
バルヘルス市民社会ネットワーク、内閣府
男女共同参画推進連携会議、ほか)、熱海
市民大学講座への講師派遣

●調査・研究事業

調査事業：「介護保険サービス利用者実態調
査—個別研究」
聞き取り等による個別調査の実施

●その他

樋口恵子賞：第4回樋口恵子賞実行委員会の
一連の活動に協力する。
但しこの活動に関する資金はすべて樋口恵

子氏個人の拠出とする

相談事業：「介護保険お困りごと相談」メー
ル受付相談

会報：年4回発行(P12～P16) 年6回から
年4回に発行回数を変更

ホームページ：ホームページの充実を図る
ホームページのリニューアルの検討

総会・会議：総会(年1回) 理事・監事会
(年1回) 運営委員会(月1回)

熱海市民大学の講座に 本会が講師協力

熱海市民大学から本会に3年間連続で
当該講座の講師依頼があり、講師推薦等
協力し、令和7年度は「人生100年時代
の設計図」をテーマに以下の講師が登壇、
大変好評を博しています。

5/8 「介護保険の現在と未来—超高齢
社会を生きる私たちに安心な老
後は守られるか？」

(講師：石田路子副理事長)

6/12 「最後まで自分らしく生きる—
『私の生き方連絡ノート』で考
える医療」

(講師：渡辺敏恵副理事長)

7/10 「人間らしい最後を迎えるために
必要な介護の力」

(講師：稲葉敬子理事)

9/11 (予定) 「戦後80年(男女共同参画)
の歩みと現在地」

(講師：木村民子理事長)

令和5年度には沖藤典子前副理事長、
宮崎冴子理事も登壇されました。なお、
残念ながら、当該講座の本会への講師依
頼は、次年度からは一旦休止となります。

(木村民子・記)

第4号議案

2025（令和7）年度 会計収支予算（案）

（単位：円）

科 目	金 額	備 考	前年度実績
I 収入の部			
1. 会費(含入会金)	3,600,000	個人会員500人（割引会員含む）、グループ36、賛助会員3	3,677,000
2. 印刷物売上	100,000	会報増部代、資料代、書籍販売ほか	98,770
3. 雑収入	194,338	寄付金、チラシ折込代、受取利息、ほか	4,397,576
4. 借入金	2,500,000	旧会より	
5. 前年度繰越金	415,662		△1,244,741
収入合計	6,810,000		6,928,605
II 支出の部			
1. 事業費	1,850,000		1,611,896
啓発事業費	1,535,000	熱海大会50万、全国大会、討ち入りシンポ、例会、HPほか	1,208,249
調査研究事業費	250,000	介護保険利用者個別研究調査、集計、分析、報告書	353,055
相談事業費	5,000	介護保険困りごとメール相談	
国内交流事業費	50,000	国内関連団体活動協力、会費、連絡調整費	50,592
国際交流事業費	10,000	国外関連団体との連絡費	
2. 管理費	4,890,000		4,901,047
給料手当	1,500,000	事務局（2人）給料、ホームページ・事務局ボランティア代ほか	1,473,910
福利厚生費	30,000		
会場・会議費	250,000	総会、理事・監事会、会議会場費、連絡費	279,782
旅費交通費	300,000	事務局員交通費、ほか	334,840
通信運搬費	650,000	会報等送料、電話・インターネット使用料	674,887
水道光熱費	120,000	事務局電気・ガス・水道料金	107,196
消耗品費	310,000	コピー機・電話リース代、メンテナンス代	298,683
印刷製本費	1,200,000	会報編集・印刷費（4回）・封筒印刷費、資料コピー代	1,217,698
事務費	280,000	税理士・行政書士手数料、用紙・事務用品	276,069
管理費	220,000	事務局マンション管理費（18,200円×12ヵ月）	218,400
雑 費	30,000	茶葉代、印紙、ほか	19,582
3. 予備費			実支出合計
予備費	70,000		6,512,943
III その他資金支出			次年度繰越金
			415,662
当期支出合計	6,810,000		6,928,605

第44回高齢社会をよくする女性の会全国大会in熱海について

木村理事長より、10月27日(月)～28日(火)に開催される熱海大会について説明があった。熱海の市民大学講座で市と縁ができていたが、当地には本会の会員や有力な女性団体はなく、実行委員会を組織することは難しかった。このため現地の有志の協力を得ながら、準備作業を進めている。宿泊も現地の事情から施設を全館貸切りとすることとなった。募集パンフレットは次号会報に同封して発送するので、是非ご参加をお願いしたい。

次回以降の大会については、会員の中から大会開催を引き受けてもいいという方がいらっしゃらなければ、来年度は東京で開催したいと説明があり、会場参加者の承認を得た。

WABAS 第44回高齢社会をよくする女性の会
全国大会 in 熱海

参加者募集

2025 未来に向けて
漏れなくとことん話さないか

2025.10.27(月)～28(火)
会場 熱海 起雲閣



主催: NPO 法人 高齢社会をよくする女性の会(WABAS)
協力: 「全国大会 in 熱海」準備会
後援: 内閣府男女共同参画局、厚生労働省、
熱海市、熱海市医師会、熱海市社会福祉協議会

熱海大会募集パンフレット

意見交換

せっかくの総会の機会ということで、参集した会員の方から発言をお願いした。

常光 利恵 理事 (中能登町)

夏の例会で大学生との交流が予定されているが、年末の討ち入りシンポでも若い人や学生特に若い女性の意見を聞くことを考えてほしい。私たちのところでもここ数年、高校生と交流しているが、若い人たちの意見をきくと勉強になってとてもいい。国立女性教育会館での研修会に参加したが、大学生もよく学んでいて、とても有効だった。楽しいことをほがらかにやったらいい。

植本 眞砂子 理事 (大阪市)

大阪でも会員が最高時の3分の1になった。資金繰りも大変でいろいろ知恵をしぼって、なんとかしのいでいる。皆さまからもお知恵を拝借したい。

「ケア社会をつくる会」には、いろいろな職種の方が入っていて若い人たちも参加している。ケアマネ部会その他、業務ごとの部会がある。本会でもそれに合わせて部会を設置したらどうか。先日の院内集会には初めて、自民党と公明党の代表がきてくれた。先の衆院選で両党は議席を減らしたが、私たちの活動を一生懸命やれば、何かが起きるということだろう。樋口恵子さんが常におっしゃっている通り、私たちは「生涯一消費者、一有権者」である。その権利を行使したいが、ネックがある。障害者と要介護5の方は郵便投票ができるが、あまり知られていない。要介護3、4の人でも郵便投票ができるようにするべきである。介護施設では、50床以上であれば不在者投票ができるが、これも実施されていないところが多い。要介護者の投票の促進について、周知をはかる活動を高齢者団体としてやっていくべきだと思う。

篠崎 英代 理事 (松山市)

会報の発行回数を減らすのは仕方のないこ

とだと思う。紙媒体の会報は郵送料もかかるので、ウェブサイトに掲載するのはどうだろうか。愛媛ではその方向で考えて準備している。介護保険の利用者実態調査では利用者の声がきけてよかった。介護環境について勉強を始めている。

渡辺 敏恵 副理事長

現在の本会HPでは、検索しても知りたい情報がなかなか出てこないの、全面的刷新を考えている。ただし、パソコンやスマホで受信できる人がどれだけいるかという問題も現状としてある。紙媒体を希望する人は依然として多い。

樋口 恵子 名誉理事長

こんなに難しい時代になってしまったが、これからの高齢社会を考えていく責任がある。秋の大会、その次の大会にお互い顔をみて、語り合っていくことが大事だと思う。



樋口名誉理事長

新井 倭久子 前事務局長



新井前事務局長

事務局長を退任して、サバサバした感じ。後は新しい方々にお任せしていいだろうと安心して、応援している。楽しく老いることを実践していきたい。

沖藤 典子 前副理事長

この会にでると元気がでる。体調を崩し、しばらく欠席していたがこれからは出席したいと思っている。



沖藤前副理事長

以上をもって総会は終了した。

(林千根・記)

(写真・見坊伊都美)

総会が終わって

理事長 木村民子

今総会の各議案も、会場の皆様は熱心に耳を傾けて説明を聞いて下さり、大変ありがたかった。おかげさまで、議事も滞りなく終わり、さらに会場から様々な意見をいただき、本会の方向性も見えてきた。会員の方々の高齢化による会員減は致し方なく、会の活動もある面は縮小せざるを得ないが、会報の刷新やホームページの作成など、新しい試みも始まっている。今後は会員の方々からの声も常時間かせていただきたいし、若い世代との交流も図っていききたい。

超高齢社会を生きる私達は、世界中の高齢者の先駆けであり、様々な課題に直面するかもしれないが、立ち向かっていく勇氣、度胸？を持ち続けたい。共に楽しく賢く老いていきましょう。



総会での
再会の
一コマ



人生100年時代を生き切る人生設計

～「老いる」こと「長生き」することで、自分の身に起きること～

講師

公益財団法人 Uビジョン研究所
理事長

本間 郁子

はじめに

介護保険制度は、高齢者が必要な時に必要な介護が受けられ、尊厳を持って生きることを支える制度として創設されてから四半世紀になりました。今は、さま



講師 本間郁子氏

ざまなニーズの変化に対応する介護サービスのあり方について根本的な見直しを求める声が大きくなっています。

日本の高齢化率は29.3%（2024年9月18日総務省公表）、平均寿命は、女性87.14、男性81.09（厚生労働省2024年7月27日公表、令和4年簡易生命表）。さらに、100歳以上の人は95,119人となり、うち、女性が83,958人で88.3%。単身世帯は51.6%、夫婦のみ世帯44.1%（2024年7月5日公表、国民生活基礎調査の概況）。

内閣府発表によると50歳時に未婚の人は男性で28.3%、女性が17.8%。統計から見える家族形態は大家族から核家族、単身世帯へと変化してきており、100歳まで生きると子どもが70歳くらいになり、共に老いていくことを示しています。

年を取れば誰かが何とかしてくれるだろうという時代は終わり、自分の人生は最後まで自分で責任を持って生きることが社会的責任として求められてきています。

では、実際に長生きすることで自分の身に

どんな事が起きるでしょうか。大まかに言えば認知症と看取りです。

1. 認知症の発症率

認知症の人の割合（年齢別）	
70～74歳	4.4%
75～79歳	13.1%
80～84歳	20.5%
85～89歳	40.0%
90歳以上	62.1%

- ・平均年齢前後からは認知症になる可能性が高くなる。
- ・厚労省の調査で精神病院の患者数は約25万9000人。うち、約28.2%が認知症患者。

認知症は老化現象と言われており、「治らない」「治せない」「予防方法がない」とある精神科医は書いています。認知症の初期症状（症状を遅らせる）に有効とされている薬が承認されており、薬物療法を利用しつつ、困っている状況や危ない場面を見たりしたときは、遠慮なく声をかけたり、手助けすることで、より長く自分の家で暮らしていただけます。

認知症の人も精神障害、身体障害があっても「ありのままでいい」という意識を広げ、人と人との関りのなかで豊かに暮らしていただける環境を地域で育んでいくことが必要だと思います。

2. 多死時代

現在、日本の3大死因は①がん、②心疾患、③老衰です。年を取るとどんな病気になるか、

どんな最期を迎えるか、誰にもわかりません。また、長生きすればするほど逆転も起きます。子供の方が先に逝ってしまったり、認知症になってしまう場合があります。

現在、引き取り手のないご遺体は年間5万8044人（65歳以上。令和6年度 厚生労働省調査）です。



*2040年まで死亡者数は増加傾向（厚生労働省政策統括官付参事官付人口動態・保健社会統計室2024年。人口動態統計（確定数）の概況（2023.9.15公表）

3. 自分で“判断できなくなった時”に備える

病気や事故で意識が無くなったり、認知症になり意向を伝えることが難しくなったりした時のために、周りの人があなたの意向を尊重して支援できるように備えておきます。日本人は「遺言」などを含め、自分の意向を書いている人はわずか3.4%（日本財団の調査）に過ぎません。

書くポイント

- ・経済状態（年金・預金・財産・貴金属など）
預金・財産などは誰に、どこに贈与するかを明記
- ・ご遺体の引取りと埋葬
- ・延命する、しない
- ・病気が明らかになった時に治療や手術を希望する、しない／入院を希望する、しない
- ・楽しみ、喜び

宗教、音楽や映画の「ジャンル」、晩酌、タバコなど興味・関心・趣味・大事にしている物など

上記を書く場合は自筆で年月日（認知症ではない時に書いたものかを証明）を書きます。

最近、一人暮らしの人を対象に、高齢者終身サポートセンターなどの事業者が増えていますが、被害者も出ています。

4. 人生最期の砦 「特別養護老人ホーム」

特別養護老人ホーム（以下、特養ホームと呼ぶ）は、老人ホームの中でもっとも長い歴史があります。経済状態にかかわらずすべての国民が入居できます。（2015年度より要介護度3・4・5が入居対象、特例入居で要介護度1・2も入居可）

メリット

- ・身元保証人がいなくても入居できる
- ・施設の都合で退居させることはできない（医療的ケアが必要な人は入居できない場合がある）
- ・所得に応じて利用料が決まる（国が決定）

年金受給状況の男女比は、国民年金のみ（老齢厚生年金の受給権なし）で、月額5万円未満の人で、女性約78%、男性約21%。年金月額10万円未満の受給者は、女性約85%、男性約34%、厚生年金の標準報酬月額は女性255,000円、男性365,000円。（国連女性差別撤廃委員会へ訴えを行う予定。全日本年金者組合。出典：弁護士JPニュースより2024年8月2日）

女性は長生きし、年金も少ないため、特養ホームは女性にとって人生最期の拠り所です。

(1) 特養ホームの運営

特養ホームは全国に10,823施設あり、自治体、社会福祉法人、JA（農業協同組合）、日

本赤十字社の限定された法人のみ運営できません。国民一人一人のお金を原資として運営(税金50%、介護保険料40%、利用料10~30%)、法人税は非課税、施設整備に国や自治体から補助あり、経営のためではなく公共のために運営することが義務付けられています。

(2) 特養ホームの現状

特養ホームは公的機関であるため、適正な運営ができていないか監査で確認することになっていますが、実施率は7.8%。不祥事や虐待(令和5年度高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律では、虐待被害者数2,335人うち女性が71.6%)が後を絶ちません。国や自治体は、通報受けてから調査に動いており、抜本的な対策は出されていません。今後、家族の目さえもない閉鎖的で密室化していく傾向にあり、入居者の人権を守るために、社会福祉法78条に明示されているように第三者評価機関による施設評価(認証)の受審を義務化していくことが必要不可欠です。

(3) 特養ホームの格差と選び方

特養ホームは申込者が多くなかなか入れな

いということをよく聞きます。しかし、3年くらいで約100人の入退居があり、地域にもよりますが、そんなに待つことはありません。

特養ホームはサービスの質に大きな格差があります。身元保証人がいない人を拒否するところ、認知症で昼夜逆転、暴力・暴言などの症状がある人を精神病院に入院させるところ、看取りをしないところ、職員教育がないところがあります。入居する時はすでに要介護度3以上になっておりその時に施設を選ぶことはできない状態になります。そのために、どのような状況になったとしても、老人ホームは専門性の高い第三者評価機関によってサービスの質が保証されているところを選ぶことです。

しかしながら、現状は、第三者評価や認証を受審している老人ホームはあまりにも少ない。利用者や家族、ケアマネジャーが施設を選ばないこと、選ぶ基準がわからないことが背景にあります。虐待を受けはじめな人生にならないように、「命」と「尊厳」が守られる老人ホームを増やしていくために、市民の知識と行動が、今、必要なのです。

第三者評価の実態

福祉サービス第三者評価	公益財団法人Uビジョン研究所
■実施率 4.44% (2023年度) 東京都 67.6% 神奈川県 5.7% 京都府 4.0%	■認証「悠」取得施設 ・・・5施設 (千葉県、熊本県、兵庫県2施設、神奈川県) ■実績 認証審査21回、抜き打ち調査32回 (2025年3月末)
■評価の実施 任意(施設が評価機関を選ぶ) 評価機関は株式会社が多い	■認証の実施 法人とUビジョン研究所が3年間の契約 (その後更新)
■サービスの質の保証はない ■調査方法 ・施設の自己評価(経営者と職員) ・訪問調査1日	■3年間のサービスの質の保証 1年に1回抜き打ち調査を実施 ■調査方法 ・17種類の調査票 ・訪問調査3日間(1日24時間)
■コンプライアンス順守の確認 なし	■コンプライアンス順守の確認 あり

おわりに

自分らしく生きられる場所は住み慣れた自分の家ですが、しかしながら、どうしても老人ホームを必要としている人もいます。特養ホームが人生最期のステージを生きる場として国民の信頼に応えられるように変えていけるのは、施設を選ぶ権利のある市民です。

Uビジョン研究所は、生きていて良かった、認知症になっても幸せに生きることができる安心して安全に暮らせる特養ホームにするために、これまで海外にも行き調査研究をしてきました。Uビジョン研究所の認証審査は利用者の尊厳が守られ笑顔で穏やかに暮らせているかを、24時間体制で現場観察をして評価します。また、家族や職員のアンケート調査も実施し、相談窓口にもなっています。

高齢者が報われる、
女性が報われる社会にしていけるために！

【参考資料】

人生100年時代に備える

「より良く生き」「より良い最期を迎える」ためにこの一冊でわかる特別養護老人ホームを選ぶチェックポイント〈改訂版〉

- ・Uビジョン研究所発行
- ・1,000円（消費税・送料込）
- ・申込み郵便振込み
- 口座番号 00190-5-487181

本間郁子 プロフィール

図書館情報大学卒業（現筑波大学）。

【現在】公益財団法人Uビジョン研究所理事長。さわか福祉財団評議員。学校法人光塩学園（札幌）評議員。認定NPO法人 発達わんぱく会理事。

表彰：2005年国際ソロプチミスト東京

2010年エイボン女性大賞

著書：近著：「高齢者法の理論と実務」（共同執筆、高齢者法研究会発行。第15章特別養護老人ホームにおけるサービスの質の確保と方法～第三者評価や認証による利用者の安心と安全の保証～を担当執筆）—中央経済社発行（2025年3月発行）

「特養ホームで暮らすということ」（あけび書房、9刷）、
「特養ホームが変わる特養ホームを変える」（岩波書店、2刷）、
「倒産する老人ホームしない老人ホーム」（ミネルヴァ書房、共著）他多数。

高室成幸さんを偲ぶ

石田 路子（副理事長）

本会の理事で、ケアタウン総合研究所代表の高室成幸さんが2025年6月5日に亡くなりました。突然の訃報に驚きを隠せませんでした。高室さんは2023年10月に急性骨髄性白血病と診断されていました。その後、治療のため4カ月入院し、「あとは通院時々入院」を続けておられました。

介護人材育成研修やケアプランのコンサルティングなど、幅広く活躍していらった高室さんと介護保険制度について直接お話させていただいたのは一昨年のこと。その後は、なかなかお会いすることができずに残念に思っていました。

ADL（Activities of Daily Living）やIADL（Instrumental ADL）は、度々、医療や介護の領域で用いられる指標ですが、高室さんが提唱したのはCADL（Cultural ADL）です。私たちの日常生活における様々な動作は、肉体的な機能（Activities）や生活手段（Instrumental）もさることながら、これまで生きてきた人生の文化的要素（Culture）が重要であるという説明に納得させられました。

高室さんのご冥福を祈りつつ、目指していたケアタウンが実現される未来を、私たちはこれからも追求し続けなければならないと思っています。



「長寿期リスク —『元気高齢者』の未来」

春日キスヨ 著 光文社新書 860円+税

長寿化、在宅化が進むなか、長寿期在宅夫婦の共倒れケースが増えつつある。ひとり暮らしなら民生委員や地域の見守りもあり問題が周囲に露見しやすい。支援受け入れも本人次第の面がある。だが夫婦暮らしの場合、「二人だから大丈夫」と発見が遅れ、夫婦の合意が必要で共依存性も関わり、介入・支援の難易度が高い。

現在、死亡者数最頻値は男性87歳、女性93歳。ひとり暮らしが多い女性に比べ、男性は85歳以上でも夫婦で暮らす世帯がほぼ半数。今後この世帯がさらに増えるが、80歳を超えると、男性より女性で認知症、関節疾患、骨折等の罹患率が高く、家事能力に支障をきたす女性が増えてくる。

そのなかで、夫が家事や社会関係能力を持たず、夫優位の生活が続けばどうなるか？介護サービスにもつながらず妻が能力の限界まで家事を担う形の虐待状況リスクが高まる。本書は新たに誕生しつつあるこの問題の報告である。

(春日キスヨ・記)

> 事務局だより

☆新体制による初の総会を無事に執り行うことができました。やる気と意欲だけは満々です。ご協力をお願いいたします。

次は、10月の熱海大会です。猛暑に負けず準備会も頑張っています。お楽しみに。

☆「介護保険利用者・利用者家族追跡調査」調査票を同封しました。昨年の調査の続調査です。ご協力をお願い申し上げます。

☆「事務局紹介」今年度より、新事務局長の佐藤千里と、事務局10年目の西島祐子の2

→ ジェンダー・ギャップ指数2025、 日本は118位と低迷続く

世界経済フォーラムが発表した2025年版ジェンダーギャップ指数は、148カ国中118位と前年と同位で、G7諸国では最下位。その要因としては、政治参画の低さが大きく、中でも女性閣僚の割合が前年の25%から10%に下落し、先進国の中でも際立って低い水準で順位が後退した。経済への参画は前年の56.8%から61.3%に微増したものの、女性管理職の比率は127位と世界最低レベルとなった。(2025.6.11)

→ 高齢者の一人暮らし、 900万世帯を超え過去最多に 在宅ニーズさらに拡大へ

厚生労働省が公表した「国民生活基礎調査」によると、65歳以上の高齢者がいる世帯のうち、一人暮らしの「単独世帯」は903万1千世帯（前年比47万8千世帯増）で過去最多を更新。高齢者がいる世帯全体(2760万4千世帯)の32.7%を占め、3世帯に1世帯が一人暮らしという実態が明らかになった。

高齢者の一人暮らしは、女性が64.0%、男性が36.0%。このうち75歳以上の割合は、女性が68.5%、男性が49.5%となっている。

高齢者の一人暮らしは今後も増え、在宅の介護サービスや生活支援サービスの需要が急速に拡大していく見通し。

(2025.7.4)

人で担当しています。お問合せや近況などお気軽に事務局までご連絡お待ちしております。(事務局)